

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4472100413 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人安岐の郷 | | |
| 事業所名 | さわやかクラブ鈴鳴荘 | | |
| 所在地 | 大分県国東市安岐町下山口58番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成21年11月13日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年2月2日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472100413&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 福祉サービス評価センターおおいた | | |
| 所在地 | 大分県大分市大津町2丁目1番41号 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年12月7日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフがなんでもするのではなく、利用者に来る事はお願いをして共に生活している事や、下肢の浮腫を減らすよう下肢マッサージや気分転換も兼ねて散歩にも力を入れている。また社内託児所がある事で子ども達との触れ合いができ、利用者はもちろんだがスタッフも一緒に楽しめている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・ケアの質を高めるため、職員は自己研鑽に努めている。特に、記録を見やすく分かりやすい工夫、研究し、利用者への気づきとケアに活かしている。
- ・利用者と共に地域行事に参加して、馴染みの関係、自主性の継続に取り組んでいる。また、自由に出入りできるよう法人全体の見守りがあり、隣接託児所との交流から、園児も一役を担っている。
- ・家族や地域の声を謙虚に受け止め、話し合い、意見を反映させている。
- ・利用者ができることを表現できるよう支援し、ベレー音楽隊としてボランティアとしての活動の場を設けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念は毎日の朝礼時に唱和している。また法人と部署ごとの理念を各部署に掲示し、面会者の目につくようにしている。 | 法人の理念をもとにグループホームで話し合い、「すてきなえがお」を頭文字として7つの目指す姿を文章化して、皆の見える所に掲示し、具体的に取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 学校行事や地域行事に積極的に参加している。(綱引き・見立て細工・ひよっこ・盆踊り等)また、地域の草刈りなどにも参加している。 | 地域活動に積極的に取り組み、見立て細工を利用者と一緒に作り、展示している。草刈作業の参加など、地域の一員として活動している。また、職員は「ひよっこ踊り」を、地域の敬老会などで披露している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方々はこのまでの取り組みを通じて認知症の方の理解をしてきてくれており行事の際には原動力になってくれている。外出支援等で人手が必要な時には応援を頼んでおり快く引き受けてくれている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議では活動状況をスライド写真や動画等で説明し、会議後はGH内にて利用者を含めお茶会を開き、ありのままの様子を見ていただき意見をもらっている。また評価結果も報告している。 | 2ヶ月ごとに開催し、幅広い立場の人々が積極的に意見を出している。会議後は利用者とお茶を飲み、実態把握や関係ができています。評価結果や行事計画なども話し合っている。推進会議の委員は、ボランティアとしてサポートしながら楽しんでいる。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 毎年、市民健診を受けに行ったり、地域観光課の方からは市町村の行事などの情報を提供していただいております。また、いかに拘束しないか考えながら業務をしている。 | 市役所の各部所や近くの支所と馴染みの関係ができています。市の行事の情報提供、催し物への参加など、協力し合い、取り組んでいます。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 開錠時間を毎日記録し毎月の開錠率を会議で報告している。また、いかに拘束しないかケアできるか考えながら業務をしている。 | 施設長や職員が研修を定期的に行き、身体拘束をしないケアについて学んでいる。具体的な方法として、ベットの取り除きや開錠時間の延長などに取り組んでいる。法人全体で安全体制を整えた上で、利用者の意思で自由に入出りをしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | ISOにも身体拘束の規定があり虐待についても記載されている。リスクマネジメント委員会毎月課題としてあげられている。また密な家族との連携で虐待防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修に参加し勉強はしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ケアマネ・Ns・管理者・主任が重要事項説明書にそって説明している。現在、重要事項説明書の内容見直しを行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 第三者委員の方に利用者の相談に乗ってもらったり利用者専用の苦情BOXを設置し対応している。最近ではご家族から気になる点などを率直にご意見頂けるようになり、ご家族との信頼関係ができていと感じている。 | 第三者委員に専門研修に行ってもらい、毎月、相談を実施している。職員は利用者・家族と信頼関係を築きながら、意見や苦情に耳を傾けている。家族は運営推進会議に参加し、意見を積極的に出している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 各会議でオープンに意見を出し合い職員の意見を聞いてもらえる機会がある。またハッピーBOX・ブラックBOXを設け自由に意見できる物がある。年一度職員アンケートも実施されている。 | 法人内に地域の声や職員が感じたことを自由に投函できる箱がある。指摘を謙虚に受けとめ、お互いに向上を目指している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 公休日を105日から117日に増加。子の看護、親の介護休暇を必要に応じて何回でも取得可能とするなど法定以上の就業規則を設けた。また、資格手当を大幅に見直し各人が目標を持てるようになった。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎週火曜日に施設内介護勉強会の実施や外部研修への参加機会も多く設けられている。研修参加後は研修報告書を書き情報共有を行っている。また各資格試験時には法人勉強会も行われている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 大分老協所属のGH職員研修があり、互いの施設での問題や取り組みについて話し合う事ができ勉強になっている。業務上、参加職員は限られるが同業者との交流は普段できない為、毎回参加希望の職員が多い。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人希望で入所される事はほとんどないが、今年7月に入所された方は併設の新型特養からの入所で最初は入所拒否をされていたが、GHへ何度か見学に来られ他の利用者と交流し入所を決められた方がいる。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所前に御家族が施設見学をされる事が多いが、その時に要望等を聞いている。また施設で対応できる・できないの範囲がある事もきちんと説明を行い信頼関係につなげていっている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用希望ある方も見えるが現在GH満床の為、その他のサービス(介護タクシー、往診依頼など)を利用者の状態や必要としている支援を見極めた中で提供している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 地域行事の参加や年度初めの運営推進会議の出席、家事手伝い等は積極的に行ってもらっており教わる事も多い。時として職員が利用者に按摩を頼み会話を楽しんだり、家族の一員として携わるよう心がけている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家庭への連絡を密に行い、家族の要望や不安などを聞き本人にとって一番よいケアを共に考えている。また家族と会える時間を大切にもらっている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入院された方や、併設の特養へ移られた方へ会いに行ったり、昔から馴染みのある美容院やお祭りへ行かれたり、同級生に会いに行ってもらっている。また会話の中に取り入れ忘れないよう支援している。 | 生活していた地域での交流会に出かけ、同級生や近所の方と会話を楽しんでいる。地域行事の見立て細工に皆で作品を作り、展示し、昔ながらの活動を楽しんでいる。ホーム利用者の入院先にお見舞いに行き、励ましたり、馴染みの関係を大切にしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 気の合う方や同じ出身地の方の席は隣にしたり、同じ趣味を持つ方は共同でできる支援をしたり、時には入浴拒否のある方には気の合う方が入浴する際にその方に声を掛けてもらい一緒に入浴する時もある。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | GHから特養へ移られた方の面会へ行ったりしている。また家族の方がGHからの方がなれているからと言われGHの玄関から特養へ行かれる方もいる。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 常に本人本位の思いを尊重しプランを立てている。困難な場合は家族と相談し本人だったらどう思っているかそれぞれ考えて支援している。また普段の会話の中からの聞き取りを行っている。 | ライフサポートプランとして独自の研修を重ね、若かりし頃の生活、して欲しいこと、思い、その人らしさなど聞き取り、日常生活からも情報を読み取っている。変化や新しい情報は、職員間で伝達し、記録に残して共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族や本人との最初の聞き取りからこれまでの暮らしの情報を聞き、プランに反映させている。また新しい情報などは必ず申し送り等に記入し情報の共有している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々に合ったその日その日の心身状態に合わせた支援を提供しており、スタッフの人数も余裕があり対応できる。また個別記録やワーカー日誌の記入により情報共有でき、利用者の生活リズムを把握できている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 三ヶ月に一度プランの見直しを行い毎月のGH会議の中で本人との普段の会話の中からの情報や本人の現状にそった家族の要望も含めたプランを話し合い立案している。 | 3ヶ月ごとの見直しであるが、1週間の記録を見やすく工夫し、毎週のモニタリングと毎月のモニタリングをすることで、職員と変化を話し合い、家族や本人と現状に即した計画づくりを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録にプラン実施確認欄があり実践している。また個別記録以外にスタッフ間・利用者からの連絡帳を活用し日常の様子等をまとめたGH会議録を作成し情報共有しプランの見直しを行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | そのときどきの本人や家族に合わせて通院等の支援を行っている。また他部署との交流も盛んで、特に同じ在宅の小規模多機能やデイとは交流も多い。また社内託児所との交流は高齢者の最大の楽しみになっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 外出では地域のお祭りやお接待へ出かけている。またボランティアの方々も協力的で、地域行事の情報や特に外出の際には進んで協力をしてくれている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診は基本的に家族対応だが、困難な場合は職員対応としている。また往診利用の方がいたり、昔から受診している病院にかかっている方もいる。受診や往診結果はその都度家族に連絡している。 | 多くは市民病院をかかりつけ医にしており、継続した受診を行っている。また、近所の医療機関を利用していた人も継続受診ができ、往診など希望に沿った、連携した支援である。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常勤Nsがいるが、不在時には併設の特養Nsに連絡し指示を仰いでもらったり、対応してもらっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 他の利用者とともに入院者の洗濯物を取りに行ったり頻回に見舞いに行き、少しでも本人の不安を軽減できるようにしている。その際病院関係者と情報交換し病院での様子は家族に伝えている。付き添い家族がいる場合は家族の不安軽減にも努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 上司や職員、関係者とその時々話しあひ、GHでできる事・できない事を家族に十分に理解していただいたうえで対応している。できる事は全面的に支援している。 | 重要事項説明書に、重度化した場合の対応を明記し、入居時に重度化した場合についての確認をしている。職員は方針を共有し、状況に応じて話し合い、希望に応じたターミナルケアに取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 赤十字の救急法の講習会や毎週火曜日に介護勉強会が行われており、その中でNsによる指導を受け、実践に備えて勉強を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 月一回、火災訓練や避難訓練を行っており夜間に備えた訓練等も行っている。また緊急連絡網の実践訓練も行っている。地域の消防団の方による消火訓練もある。 | 毎月、避難訓練を実施、夜間対応訓練も行い、個別誘導も検討している。地域の方が協力的で、推進会議で訓練状況を報告している。備蓄もしており、災害やパンデミック対策も行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | スペースのスケジュール表には個人名をインシヤル表記にて対応している。また前回の外部評価で排泄の声掛けに指導いただき、周りに聞こえないよう十分に注意している。職員間で注意し合っている。 | 法人研修にて学習し、ケアに活かしている。トイレの声掛けもさり気なく、行きたいという意思を尊重して寄り添っている。職員間で注意し合い、プライバシーの配慮に取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 飲み物や食事内容、衣類等の選択をしてもらっている。自己表現できない方にはその時々に応じた対応をし、なるべく意向を聞き出せるよう支援している。また他部署の応援もあり、自由にGH外に行けるようしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 全てが本人の希望通りにいかない事もあったり、どうしても職員の都合になったりする時もあるが、個々のペースを大切に、その人らしい一日を過ごしてもらえようスタッフ全員で努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入浴時や起床時・外出時は一緒に服を選んだり、寝巻きと私服をちぐはぐに着ている方には、本人のおしゃれをしているという気持ちを尊重しながら、さりげない声掛けを行い対応している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 年2回、嗜好調査を実施し好き嫌いの把握に努めている。食事準備・片づけは利用者が率先して行ってくれる事が多く職員と分担しながら行っている。また2ヶ月に一度外食やお弁当を作り庭で食べるようにしている。 | 食べたい物をアンケートや会話で把握し、リクエストも聞いている。季節の食材を食べやすく調理し、形を残して柔らかくするなど、機能低下者に対応した工夫が見られる。五感への刺激や食事の準備、片付けなどできることを活かす支援も行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分・食事量共に記録し把握に努めている。栄養面は半年に一度、栄養士に一日のカロリーを計算していただいている。なるべく多くの季節の野菜を取り入れた調理を行い、水分はいつでも取れるようにしてある。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを実施しており義歯装着者は水・日にポリデントの実施している。また月に一度、歯科衛生士の口腔内チェックがあり指導していただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 昼夜で使用パッドが違う方や、リハビリパンツからトレーニングパンツ、普通の下着に戻った方もいる。トイレと言う言葉が理解できない方には、スタッフが腹圧をかけての対応をし最近では排尿パターンが決まってきた。 | 排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。トイレの表示を立体化し、ドアの色など見やすくして場所が分かるよう工夫している。また、食事で繊維質の物を多く摂取したり、マッサージなどで自力による排泄を介助している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事に野菜やきのこ類を多く取り入れている。適度な運動や大目の水分で便秘予防に努めている。2名便秘薬を使用中だが1名は下腹マッサージにより解消されつつあり状態をみて下剤の調整を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 毎日入浴できる環境にしており、ほぼ全員が毎日入浴されている。気分がのらない方は時間や日を変え入浴していただいたり寝巻き更衣時に衣類交換を行ったりしている。 | 気分に合わせて好きな時間、夜間でも入浴可能であり、ほとんどの方が毎日入浴している。浴室に花を飾り、入浴を楽しむよう配慮し、拒否する場合は誘い方に工夫をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 就寝時間は自由である。十分な睡眠がとれなかった方には昼寝を促したり、和室や廊下ソファーにてくつろいでいただいている。また眠れない方には必要に応じてホットミルク等飲んでいただいている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 変更時は個別記録・ワーカー日誌に記載し情報の共有を図り家族連絡も行っている。経過観察もしっかり行い時として家族と相談後に服薬変更の場合もある。また内服時には必ず飲み込んでしまうまで確認している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 季節毎の行事参加やドライブ等行っている。また個々の趣味に応じた対応をし、畑仕事・調理・手芸や読書に昼寝等行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 荘外散歩や併設の事業所内散歩に行ったり、個々に買い物やドライブに出かけたりしている。また家族と外出される方も多く、家族にも外出のアプローチしている。 | 毎日散歩に出かけている。外に出たい時は自由にひとりで出かけ、法人や地域で見守る体制ができている。隣接の保育園の子ども遊ぶ姿を見たり、日向ぼっこなど楽しんでいる。買い物やドライブ、同法人が開催している100円居酒屋や100円喫茶など、出かけて行く企画も工夫している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理はできない方ばかりで個別に持つ事はなくスタッフ管理となっているが、買い物等の支払時には本人に支払ってもらっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人希望でスタッフが取り次ぎTELする方や、帰宅願望のある方にはスタッフの声かけにてTELする方がいる。手紙は2ヶ月に一度のさわやか便り送付時に代筆したりしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | スペースや廊下には職員と利用者の作品や写真、ボランティアの作品など展示している。花は食物と間違い異食行為があり食卓には飾らなくなったが、玄関やTVの上に飾っている。また換気を常に行い臭いがこもらないように努めている。 | ボランティアの方が、木彫りやぞうりなど手作りの作品を飾ってくれたり、足踏みミシンや黒電話などを置き、懐かしく安らげる空間である。大きな掘ゴタツを皆で囲み、思いおもいに寝転び、テレビを見たり、話をしていて、家庭的な雰囲気である。食事づくりも同じ部屋で行い、匂いや音を感じるなど居心地の良い雰囲気である。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 庭のイスや廊下のソファーや和室など自由に好きな時に過ごしていただいている。また時にはワーカールームで職員と過ごす方もいる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の作品や昔の写真などを飾ったり庭で積んだ野花を活着している方もいる。本人と家族が面会時などにも過ごしやすいよう好きな家具を持ち込んでいただいている。ただ日中居室で過ごされる方はほとんどない。 | 昔の生活が感じられる写真や好きな本、思い出の品などを飾っている。家族の思いも感じられる。テーブルやイスも好きなものを持ち込み、好きなように花を飾り、自分流の部屋となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | なるべく自立した生活が送れるよう設備担当職員がトイレの看板を設置してくれたり、スペースより遠いトイレには鈴を付け出入りが分かるようにしている。また食卓テーブルは個々に合った高さになっている。 | | |